

【熊本国税局長賞】

災害と税金

津久見市立第一中学校

三年 川野 ゆな

私たちは、ものを買う時に消費税として税金を支払います。消費税だけでなく、大人は所得税や住民税なども支払っています。一人が支払う税金の額はほんの少しであるのに、国の収入として入るときには国の収入の約六割は税金が占めます。

二〇一七年、私は税金の役割を理解するできごとを体験しました。台風一八号が猛威を奮い、大雨の影響で近くの川が氾らんしました。砂や泥を含んだ濁流はどんどん水かさを増し、駐車場に止めてある車はてっぺんがギリギリ見えるくらいまで浸かりました。家の中に大量の泥水が入ってきました。お風呂の汚水が逆流し、家の中のカーペット、ベッド、洋服、それに思い出がしまったアルバムは全て泥まみれになってしまいました。建ててまだ一年もたっていない家がどんどん傷ついていくのはとても悲しかったです。夜はきれいとも分らない水でご飯を炊き、食べました。今なら、安心してきれいな水が使えるのは税金のおかげだとわかります。台風で、どっと疲れた一日でしたが、落ち込んでいる暇はありませんでした。次の日からすぐに復興作業が始まりました。水道の水は汚く、飲めませんでした。そんな時、給水ポンプ車が来てくれ、友達が水を運んでくれました。人と人とのつながりが本当に大切だと知りました。そして、とてもありがたかったです。

家は半年でなおったけれど、氾らんした川は今もまだ改修工事が行われています。二度と氾らんが起きないように、川の幅を広くし、大きな橋をかけているのです。大きな橋をかけるには、たくさんの時間、労働力、お金がかかります。一人一人がしっかり税金を支払っているからこそ、税金を使って、橋をかけることができるのです。一人一人が社会をより良くするために税金を支払うことはあたりまえであり、あたたかいことでもあると、私は感じました。

八月にはその橋も開通します。橋の橋名板にはあの時水を運んでくれた友達の字があります。私はその橋を通るたびに、台風のことを思い出すと思います。それはつらい思い出としてではありません。あの時、人と人とのつながりの大切さ、あたたかさを知ったからこそ、これからも税金を支払おうという決意だと思っています。